

大本山總持寺祖院

總持寺祖院は、いまも活動している僧院であり、日本の曹洞宗の2つの本山のうちの1つです。道元(1200～1253年)は、中国に旅してすぐれた僧のもとで禅を学び、この旅から戻ってきた後に曹洞宗を開きました。道元は、坐禅(座って行う瞑想)の価値を強調しました。坐禅は、今も曹洞宗の実践の重要な部分です。道元は、1246年、福井県に、曹洞宗の最初の寺である永平寺を創建しました。

總持寺は、曹洞宗の普及における重要人物であった瑩山(1268～1325年)によって、1321年に創建されました。瑩山は永平寺で学び、13歳で出家しました。瑩山は、總持寺を曹洞宗の教学と実践の大きな中心地にし、日本中の16,000を超える末寺へとその影響力を広げました。總持寺は、19世紀に起こった火災後、神奈川県横浜に移転し、輪島にある本来の總持寺は「總持寺祖院」になりました。

寺での生活の中心

法堂(大祖堂)は、朝夕の祈りと説法場です。法堂は、總持寺祖院で最大の建物であり、約545平方メートルあります。法堂は、僧堂と坐禅の場の実用的な外観と対照的に、金色の飾り、輪島の漆、また精巧な彫りものが配されており、仏教の教えの大切さを伝えるように設計されています。法堂の正面の、彫刻のある欄間には、總持寺の創建者である瑩山の人生が描かれています。

法堂は、長い廊下で僧堂につながっています。この廊下は、總持寺祖院の中庭の一边に沿っています。僧たちは、祈りと瞑想のために行き来する際、創建者への敬意を示すため、中庭の向こう側にある瑩山の靈廟（伝燈院）にお辞儀をするようにしています。この靈廟は 1822 年にさかのぼるもので、1898 年の火災を免れた数少ない建物の 1 つでした。

回転する書庫

経典を収蔵している経堂は、18 世紀にさかのぼるものです。この経堂は、1898 年に總持寺祖院のほとんどを破壊した大火を免れました。経典は巻物に書かれており、中央の八角形の柱（輪蔵）に保管されています。輪蔵は、中央の軸で回転させることができます。中には 344 の聖典が保管されており、輪蔵を回すことで、これらの聖典すべてを読むのと同じ御利益がると言われます。輪蔵の前には、中国の仏僧である傳大士（490～560 年）の像があります。傳大士は、経典のための回転棚を発明したと言われています。

寺での生活を体験する

現在、總持寺祖院には、寺の日々の管理を担当する僧 5 人と見習いが 6 人います。訪問者を歓迎しており、1 時間の坐禅を少額の料金で体験したり、事前に予約の上、宿泊することもできます。宿泊の際は、菜食料理（精進料理）、朝の祈り、坐禅など、寺での生活を体験できます。

大本山總持寺祖院は、毎日午前 8 時から午後 5 時まで開いています。